

学域横断的プロジェクト入門《2024》

#2 グループワーク1：共通テーマの設定

荻谷 千尋・田中 千晶・中野 正俊

19, Jun, 2024

I. 前回の振り返り

- 振り返り（別紙参照）
- 初回授業アンケート結果

II. 共通点を探そう：共通点グランドスラム

- ルール
 1. グループメンバーで情報を出し合いながら、「共通点」を探し、見つかったものから用紙に書きだしていきます
 2. すべての人数欄がうめられたらグランドスラム達成！
- お題
 1. 自己紹介に関する「共通点」を探しましょう
 - ただし、すぐにわかる共通点はNGです
 2. 探究学習に関する「共通点」を探しましょう

III. テーマ設定と先行研究

1. テーマ設定

注意 | 研究動機とリサーチクエッションを混同しない

- 研究動機とリサーチクエッションを区別することが大切です
- 私的な研究動機は明らかにしません
- 研究動機
 - 知りたい、〇〇をよくしたい、単位が欲しい
- リサーチクエッション
 1. 論証・検証可能であること
 2. まだよく知られていない事象・現象であること／定説への反論
 - 単なる勉強は研究ではない

Note

リサーチクエッションの作り方は、別途、説明します

2. 先行研究

(1) 先行研究選択の5原則（河野哲也 (2021)）

1. 著者の信頼性
2. 内容の正確性
3. 意図と読者対象
4. 公平性・客観性
5. 最新性

(2) 先行研究を探す際に気をつけること

1. ディシプリン/サブディシプリン
2. 研究対象
3. 研究方法
4. 掲載媒体

注意 | 自分の興味関心だけではよい先行研究を探せません

- 学部生（特に初年次）は、自分の研究関心に合うかに合わないかを重視し、ディシプリンや掲載媒体を意識しない傾向にあります

3. ディシプリン

(1) ディシプリン

- 固有の研究領域と固有の研究方法をもつ
 - 例：政治学/心理学/工学
- 学部（学類）の基本単位

(2) サブ・ディシプリン

- ディシプリンのなかの研究領域を細分化したもの
 - 例：政治思想史/動物心理学/材料工学
- ➡ 研究対象もしくは研究方法を限定
 - 例：経済学と**行動**経済学
- 研究（学会）活動の基本単位

(3) トランス・ディシプリナリー

- ディシプリンを越えた協働・共同研究
 - 例：環境学
- 多くの場合、基底的なディシプリンに支えられていることが普通

Tip

自分の興味のあるサブ・ディシプリンは何かを探すことが重要です

4. データベース

(1) 論文の種類（掲載媒体）

- 学術雑誌（査読あり）；紀要；書籍（編著）

重要 | 論文のターゲット

- 論文が想定する読者は研究者（サブ・ディシプリンレベル）です
- 学部生が論文を読むことを想定して、論文を書いていません

(2) データベース

- 検索エンジンの利点と問題点
 - 論文は探しやすくなったが、**質を保証する検索は難しい**
 - 網羅性 = 玉石混交
- 論文検索のポイント
 - 研究者が評価している文献を読むことが大切
 - 厳選されたデータベースを用いることが重要

- 図書館を利用する手間を惜しまないことも大切
 - ダウンロードできる文献のみに当たっては、いいレポート、論文は書けない

Tips | 信頼できる研究者を探したあとに、論文を探す

- 「よい研究者を探す」 ➡ 「データベース」から論文を探す
- ➡ 玉石混交のなかから玉を選びやすくなる

(3) よい研究者を探そう

Note | 研究者を見極めよう

- 重鎮・権威；新進気鋭の若手・中堅；誰も知らない人？
- ずっと以前からこの研究をしている；メインの研究は別にあり、たまたまこのテーマに手を出した（頼まれて書いただけ？）
- 新聞社が専門家として意見を求める研究者（初学者お勧め度★★★）
 - 新聞社はデタラメに研究者にコメントを求めているわけではない
 - Cf. 朝の情報バラエティ（Xで検索！）
 - 金沢市の政治（選挙）：河村和徳（東北大学）
 - 貧困問題：阿部彩（東京都立大学）
 - 朝日新聞（有料サイト・アクセス制限あり）
 - 日経新聞（有料サイト・アクセス制限あり）
 - 読売新聞（有料サイト・アクセス制限あり）
 - 朝日新聞；日経新聞 via 附属図書館オンラインサイト
- 新書の執筆者（初学者お勧め度★★★）
 - 優れた研究者が一般の人（初学者）向けに書いた良書が多い
 - 岩波新書
 - 中公新書
 - ちくま新書
 - ブルーバックス
- researchmap（初学者お勧め度★★☆）
 - 研究＆教育プロフィール
 - 日本標準（科研費申請に必要なため、実質的に記載、記入が義務化されている）

IV. グループワーク

1. 個人ワーク

- 「よい研究者を探そう」を通して、自分の興味のある研究分野、ディシプリン（サブディシプリン）を探してみよう（3名）
- 検索に使ったキーワードと研究者を探した方法（サイト）をメモしておくこと

2. グループワーク

1. グループ内で個人ワークを共有し、（グループのテーマとは関係なく）もっともよく調べた、自分も参考にしたいと思える者を1名選んで下さい（本日の授業内で発表してもらいます）
2. グループで共通して関心があるような研究者や研究テーマをリストアップして下さい。理由も挙げて下さい（2つ）

V. 次回までの宿題

1. 授業の感想

回答先と締め切り

- 回答先：Google Forms
- 締め切り：2024年6月23日（日）23時59分

2. リーディングアサインメント（予習）

河野哲也『問う方法・考える方法：「探究型の学習」のために』（ちくまプリマー新書、2021年）「レポートの書き方」（167-180ページ「結論は振り返るだけです」まで）

1. 重要だと思った箇所、あるいは、面白いと思った箇所、疑問に思っていた点が解決した箇所などを挙げて下さい
2. 上記の理由を教えてください（150-200字程度）

Note | 摘出先と締め切り

- 提出先：Google Forms
- 締め切り：2024年6月23日（日）23時59分

3. ワークシート1（グループワーク）「よい研究者を探そう」

Note | 摘出先と締め切り

- 回答先：次回授業（教室）
- 締め切り：次回授業

引用文献

河野哲也（2021）『問う方法・考える方法：「探究型の学習」のために』，筑摩書房．